

平成23年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成24年3月3日（土）午前10時～12時00分

2 開催場所 中央図書館2階視聴覚室

3 出席者

（委員）根津委員長 金澤委員、橋本委員 土久委員

藤田委員 高橋委員

（事務局）森田館長 齋藤副館長

本多係長 長田係長、三輪副主査

4 議題

（1）報告事項

①平成23年度利用統計及び事業報告について（11月から1月）

②平成24年度事業について

③図書館法改正に伴う図書館設置条例の改正について

④規則の改正について

⑤資料延滞に対する対応について

⑥その他

（2）協議事項

①レファレンスサービスの強化について

5 議事の概要

① 平成23年度利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。

② 平成24年度事業について、事務局より報告を行った。

③ 図書館法改正に伴う図書館設置条例の改正について、事務局より報告を行った。

④ 規則の改正について、事務局より報告を行った。

⑤ 資料延滞に対する対応について、事務局より報告を行った。

⑥ 東日本大震災関連の展示について、事務局より報告を行った。

⑦ レファレンスサービスの強化について、協議を行った。

6 会議経過

① 平成23年度利用統計及び事業報告の11月から1月について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（意見）浦安市への人口の流入の減少が指摘されるが、統計の報告によると、図書館が市民の間に根付いていることが数字でも表れている。

(質問) 転入者の減少等がある中で図書館の対応は。

(回答) 震災があるなしにかかわらず、新規の利用者に対するPRは重要と考えており、転入時のPRについて市民課と連携するなど積極的に取り組んでゆきたい。

(質問) 日の出分館と高州分館の施設の格差が大きい。高洲に近い地域の人は高洲分館に行ってしまう。座席数、閲覧場所が少なく、日の出の利用者には不公平感があるようだ。

(回答) 課題として受け止めている。

(質問) 集会事業の際アンケートなどで、参加者のニーズを把握するようなことはしているか。創業支援セミナーはどのように行っているか。

(回答) 各事業でアンケートを取ったり、利用者の声を聴き、今後の企画等への参考としている。

② 平成24年度事業について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) 事業費が増えていないのにサービスの拡大がされているが、人件費が含まれていないのか。震災により効率的になったのか。

(回答) 賃金は含まれている。予算については、経費の増大を抑えながらサービスは拡大できるよう創意工夫に努めた。

③ 図書館法改正に伴う図書館設置条例の改正について、事務局より報告を行った。

意見(質問)なし

④ 規則の改正について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) これまで弁償はどのように対応していたのか。

(回答) 利用者の申し出により、事実関係を確認の上、弁償を受けている。同一資料が入手困難な場合は、別途資料を指定している。

⑤ 資料延滞に対する対応について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) 95日以上延滞している人はどれくらいあるのか。

(回答) 年間にすると600名程度である。実際にカウンターでの対応は週2~3人程度である。

(質問) 大学などでは延滞期間に応じた貸出し禁止期間があるが、3か月でというのは緩いのではないか。

(回答) 最初はこの程度から実施し、状況を見てゆきたい。

(質問) 大学などでは、返却しても延滞期間が貸出し禁止になるところもある。返却すれば貸出しは可能となるのか。

(回答) 返却がされ次第貸出し禁止は解除される。

(質問) 1冊でも延滞があれば貸出し禁止となるのか。

(回答) 延滞冊数にかかわらず、95日を過ぎると貸出しは禁止となる。

(質問) 利用者はどのような理由で95日の延滞をするのか。

(回答) 病気などでやむを得ず延滞をする方もあろうが、理由は様々であると考え
る。

⑥ 東日本大震災関連の展示について、事務局より報告を行った。

意見(質問) なし

⑦ レファレンスサービスの強化について、協議を行った

その際に表明された意見(質問) は次のとおり。

(質問) レファレンスの結果、貸出が増えるなどの効果があったのか。

(回答) 狭義のレファレンス(調査回答)の件数は1000件余りであり、200万冊
以上ある貸出冊数に影響を及ぼすほどではない。

(質問) OPACで検索しても、探している資料を自分ではなかなか探し当たらないこ
とがある。

(回答) OPACの使い勝手や図書館利用の手引きを整えるなどの改善を今後も進め
ていく。一方、資料の検索に職員が介在することにより、効率的に目的の
資料を提供することも重要と考えている。

(質問) レファレンスに対しては熱心に対応してくれているが、ちょっとした質
問をしたい時にカウンターが空かず、質問をしそびれてしまう。

(回答) 中央図書館では、簡単な質問は「本の案内」、込み入った相談は「レファ
レンス室」という使い分けを案内している。また、調査回答における対応
時間は30分を標準とし、最大1時間までを原則としている。

他の図書館における対応策としては、銀行や市役所窓口にあるような順
番待ちレシートを発行する図書館が最近増加している。

(質問) レファレンス室は入りづらい、ガラスの仕切りも必要ないと思う。職員
に質問するメリットにはどのようなものがあるのか。

(回答) 自ら調べるときは、来館時の蔵書の範囲内で調べることになるが、職員
に相談することで、未所蔵の資料、各種データベース等の情報も検索し、
効率的に調べものをするができる。

(意見) まだまだ、レファレンスサービスを知らない人も多い。より多くの人に
使っていただき、様々な質問が寄せられるほど、職員が鍛えられること
になる。どんなことでも図書館で訊ける、という雰囲気がもっと広がれ
ばと思う。

(質問) 平成19年度、20年度に調査回答件数が1000件以下になり、そのあと
再び増加した理由は何か。

(回答) 平成21年度になり、レファレンスサービスを主に担当する係として現

奉仕第二係が設置され、より意識的に取り組んだ結果、21 年度以降は年間 1000 件以上を維持している。

(意見) 今は、インターネットで検索すればある程度の情報は調べられるようになった。しかし、それだけでは十分ではなく、そこに図書館のレファレンス機能が重要視される契機があると思われる。

7 傍聴者 0名